

**一般演題9-1**  
**高気圧酸素治療に限定した学生実習を行って**

春田良雄<sup>1)</sup> 野堀耕佑<sup>1)</sup> 味岡正純<sup>2)</sup>

- 1) 公立陶生病院 臨床工学部
- 2) 公立陶生病院 循環器科

**【はじめに】**

全国における高気圧酸素治療装置は毎年減少傾向(図1)に有り、さらに、設置されていない県も存在する。臨床工学技士の養成校は、自施設の病院または近隣の病院にて高気圧酸素治療の実習を行うが、高気圧酸素治療装置を所有しない施設で実習を行う学生は高気圧酸素治療装置の実習を受けないで卒業することになる。そこで、今年度、養成校からの要請により高気圧酸素治療の実習を単独で行い、学生にアンケートを行ったので、その結果を踏まえて報告する。

**【目的】**

今回、要請された養成校の実習先には高気圧酸素治療装置がない施設が有るため、学生全員に高気圧酸素治療装置の実習を受けさせ、治療方法、安全対策を理解させる。

**【対象】**

3年課程の臨床工学技士3年生10名の実習を午前9時から17時まで行った。(写真1)

**【結果】**

実習内容の理解、実習に対しての満足度についての問いには、ほとんどの学生より「理解できた」「満足」の回答を得た(図2)。また、高気圧酸素治療に対しても全ての学生から興味を持ったとの回答を得た(図2)。また、高気圧酸素治療の実習の必要性に関しては、ほとんどの学生が行う必要があると回答を得た(図3)。自由記載では高気圧酸素治療装置の始業点検、治療操作・方法、終業点検など学校では学べ

ないことや自信が高気圧酸素治療装置のタンクの中に入ることで患者さんの気持ちが理解できた、患者さんとのコミュニケーションが重要なことが理解できたと良好な回答が得られた。

**【考察】**

高気圧酸素治療装置は、毎年設置台数が減少しているが臨床工学技士の業務であり、養成校を卒業する学生が実習を行わないで卒業することは、知識的にも安全面でも非常に危険であると考ええる。すべての養成校で高気圧酸素治療の実習を行い、高気圧酸素治療をしっかりと理解した学生が卒業してくることが望ましい。しかし、受入先の病院の業務は多忙で有り高気圧酸素治療装置を所有する施設全てが学生を引き受けられるとは限らない。今後、高気圧酸素治療の実習が全国で出来るようなシステムを構築する必要があると考える。

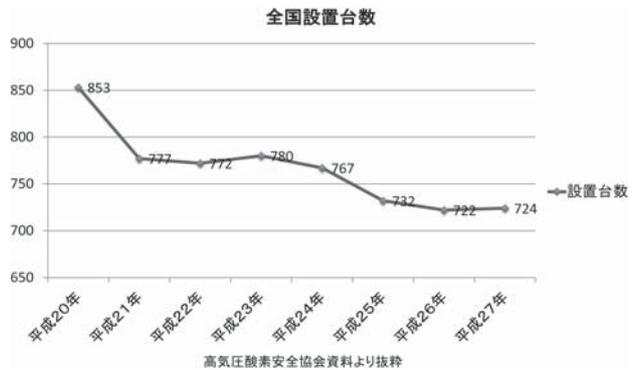


図1

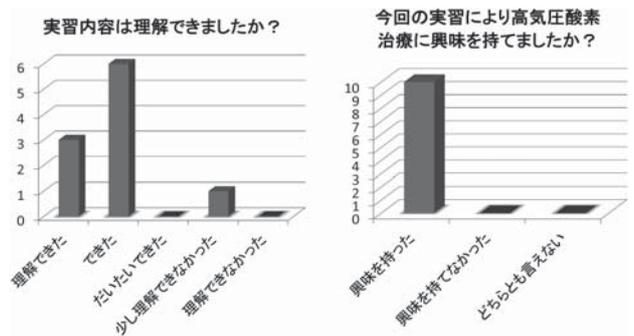


図2

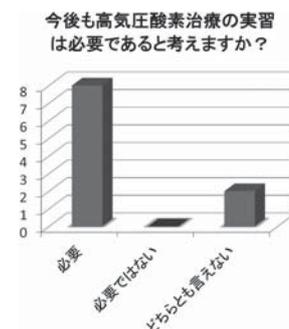


図3



写真1